

## 佐賀の果樹3月号 今月の管理（病虫害防除）

今月は果樹類の発芽が始まり、今年の栽培管理作業も本格的に始まります。休眠期にやるべき伝染源の除去等の病虫害対策は確実にできていますか？十分にできていない場合は、今からでもできることを急いでやりましょう。また、病気に対しては発芽前から生育初期の防除対策が非常に重要です。時期を逃さないように対策を実施しましょう。

### <果樹類全般>

#### ○伝染源の除去

罹病葉・罹病枝や落ち葉、枯れ枝、剪定枝などの伝染源はしっかり除去・処分してありますか？伝染源の除去は、生育期間中の病害の発生を抑え、防除の効果を上げるためにまず行うべき作業です。できていない場合は、今から必ず取り組んで下さい。

### <露地カンキツ>

#### ○かいよう病対策

かいよう病は、3月中旬頃以降、雨天時に葉の病斑から菌が流れだし、感染が始まります。発芽前～5月の初期防除が重要で、中でも発芽前の3月上旬頃の防除は特に重要です。かいよう病に弱い中晩柑類ではI C ボルドー66D 60倍等を必ず散布し、菌の感染を抑えてください。温州ミカンでも、前年にかいよう病が発生した園や幼木園、高接園などでは必ず散布してください。ただし、発芽直前に薬剤を散布すると落葉が生じやすいので、樹勢が低下した樹や散布予定前に低温に遭遇した場合は、発芽直前の散布を避け、4月以降の防除を徹底してください。

#### ○黒点病対策

伝染源となる枯れ枝のせん除や剪定枝等の除去・処分を徹底しましょう。

#### ○カイガラムシ対策

前年にカイガラムシ類が発生した園で、1月上旬までにマシン油乳剤を散布できていない場合は、発芽前の3月上旬にマシン油乳剤 97% 80倍を散布してください。その際、かいよう病対策の銅剤とは混用したり近接散布したりせず、散布間隔を2週間以上あけてください。ただし、樹勢が低下した樹に散布すると落葉を助長する可能性があるため、マシン油乳剤の散布は控えます。また、散布後に低温に遭遇した場合にも落葉助長等の悪影響をおよぼす可能性があるため、低温が予想される場合もマシン油乳剤の散布は控えます。いずれの場合も生育期間中の薬剤防除を徹底してください。

### <ナシ>

#### ○発芽前の病害防除対策

黒星病菌や黒斑病菌は展葉直後から感染し始めますので、発芽直前にキノンドーフロアブル 1,000 倍を散布してください。スピードスプレーヤーで散布する場合は、全列走行でゆっくり散布してください。

#### ○苗木植え付け時の白紋羽病対策

苗木を新植する場合には、必ず接ぎ木部を露出させ、盛り土して植えてください。万が一白紋羽病が発生した場合に、根部を露出させる作業や病気の観察が簡単にできます。また、植え付け時にはフロンサイド S C 500 倍液を、植え付け部（半径 50cm 程度）に灌水器などを用いて 50L/樹処理してください。

#### <ブドウ>

##### ○黒とう病対策

萌芽直前から萌芽極初期の防除が重要です。この時期に、キノンドーフロアブル 600 倍を散布しましょう。

##### ○晩腐病対策

発芽前にヨネポン 100 倍を散布しましょう。

#### <ウメ>

##### ○黒星病対策

3月中旬にフロンサイド S C 2,000 倍を散布します。なお、フロンサイド S C は、4月中旬以降に散布すると果実に日焼けに似た症状の薬害を生じますので、この時期のみの散布としてください。

##### ○かいよう病対策

開花前から花殻離脱開始前までの防除が重要です。この時期に、I C ボルドー66D50 倍または Z ボルドー500 倍を散布しましょう。両剤とも幼果期に使用すると果実に薬害を生じることがあるので、注意してください。

かいよう病は、幼木期に多発するとその後も発生が継続して防除が困難となるので、特に幼木期の防除を徹底して行いましょう。

#### <モモ・スモモ>

##### ○細菌病対策

モモで問題となるせん孔細菌病やスモモで問題となる黒斑病は近年増加傾向にあります。露地栽培では開花直前に I C ボルドー412 30 倍を散布します。展葉後に散布すると薬害（葉やけ）を生じますので散布が遅くならないよう注意してください。

##### ○縮葉病・ふくろみ病対策

発芽(出蕾)前の薬剤散布は済んでいますか？まだ散布されていない場合は早急 to 実施してください。薬剤は石灰硫黄合剤 7 倍を散布しますが、他の薬剤に変える場合は、モモ縮葉病

ではキノンドー水和剤 40 500 倍やチオノック(トレノックス)フロアブル 500 倍、スモモふくろみ病ではチオノック(トレノックス)フロアブル 500 倍が使用できます。散布ムラがあると防除効果が低下しますので、散布ムラが生じないように丁寧に散布します。特に枝先などかかりにくいところはムラになりやすいので、3～4方向から散布してください。

<キウイフルーツ>

○かいよう病対策

発芽前までは IC ボルドー66D50 倍等を使用し、発芽後はコサイド 3000 2,000 倍 (クレフノン 200 倍加用)等を使用して防除を行います。かいよう病が発生していない園でも必ず防除を行いましょう。

○キクビスカシバ対策

3月下旬頃から幼虫が孵化し、新梢に食入します。3月中下旬と4月上旬の2回、フェニックスフロアブル 2,000 倍を散布します。幼虫が枝内に入ってしまうと薬剤を散布しても効果が期待できないため、散布時期が遅くならないよう注意してください。

※キウイフルーツの防除では、品種によっては使用できる薬剤が限られているため、防除暦等を確認して薬剤を選択してください。